

～「学研木津北地区」というのは鹿背山の里山のこと 里山活動を楽しみながら、里山再生に取り組んでいます～

竹林の侵食

鹿背山の里山を見上げると山の高い位置まで竹林が侵食しているのがわかります。かつては人が営々と築いてきた薪炭の森でしたが、燃料が化石燃料に移行したことや山林を管理してきた担い手の高齢化などの理由が重なり、山が放置されたことで竹林が侵食してきました。

本来は竹を栽培する予定ではなかった場所にまで進出してくることで、この地域本来の植生が失われています。

竹は成長に多くの光を必要とせず、森林に侵入すると密生して他の樹木の生育を遮ってしまいます。竹が侵入した雑木林では、竹は数日間という短期間で

10m近くに成長するので、背の低い木に光が届かず、ほとんど竹しか生えない土地になり、このままでは、里山を生息地とする生物が生きられない危機的状況になってしまいます。



里山活動

人々が薪を使って暮らしていたつい数十年くらい前まで農山村の住民は里山を利用しながら生活していました。しかし、人手が入らなくなった里山の木々は30年、40年と時を経て手つかずの森に変容しています。

鹿背山で活動する団体は、もう一度里山を利用し、生活の中に森林との接点を取り戻す活動を展開しています。里山を人間の生活に役立つように、

営々と維持管理していくのです。

生活の一部として里山と接していると、徐々に里山のことが分かり、里山とつながると自然のことに無関心ではいられないし、自然を体で感じることができます。さまざまな植物や動物がいて、人間や人間以外の生き物たちにとって互いに大切であることなど、自分自身の視点からより深く理解できるようになるはずです。

みもろつく鹿背山里山学校

里山を遠い存在だと感じている大人や、里山遊びをしたことのない子ども達に自然の恵みを受け、生命の不思議を知ってもらいたいと始めた里山学校。

今年は2年目の開催で、10回のプログラムのうち、すでに4回を開催しました。

4月の開校式では、河井市長から「講義を聴いたり、里山作業を体験したりするだけではなく、積極的に意見を述べ、質問をして、里山学校での1年間

を有意義なものとしてください」とのあいさつがあり、その後、NPO法人京都発・竹環境流域ネットの活動地でタケノコ掘りを体験しました。

6月は、田植えとサツマイモのツル差しに挑戦しました。併せて国連生物多様性の10年「グリーンウェイブ2017」としてヤマザクラやクリ、ドングリの苗木を植樹しました。

7月は火起こし体験と地元産の夏野菜をふんだんに使った野外料理に挑戦。

9月は白菜の苗の植えつけと大根の種を播き、10月は、お米とサツマイモの収穫や里山や竹林整備を体験します。



里山へGO！（里山活動に参加してみよう）

鹿背山での里山活動を体験してみたい方や参加してみようと思われた方は、気軽に連絡してください。

木津北地区保全推進室（都市計画課内） ☎ 75-1222 ✉ kizukita@city.kizugawa.lg.jp